

高齢者の暮らしと介護についてのアンケート調査結果

調査の概要

1 調査の目的

磐田市高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定の基礎資料として、調査を実施するものです。

2 調査対象

一般高齢者 : 要介護認定を受けていない65歳以上の方

事業対象者 : 総合事業の対象者

要支援認定者 : 介護保険要支援認定を受けている方

要介護認定者 : 介護保険要介護認定を受けている方

3 調査期間

令和5年2月1日～2月20日

4 回答状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
一般高齢者	2,000通	1,487通	74.4%
事業対象者	222通	165通	74.3%
要支援認定者	1,000通	692通	69.2%
要介護認定者	1,500通	909通	60.6%

調査結果の分析（抜粋）

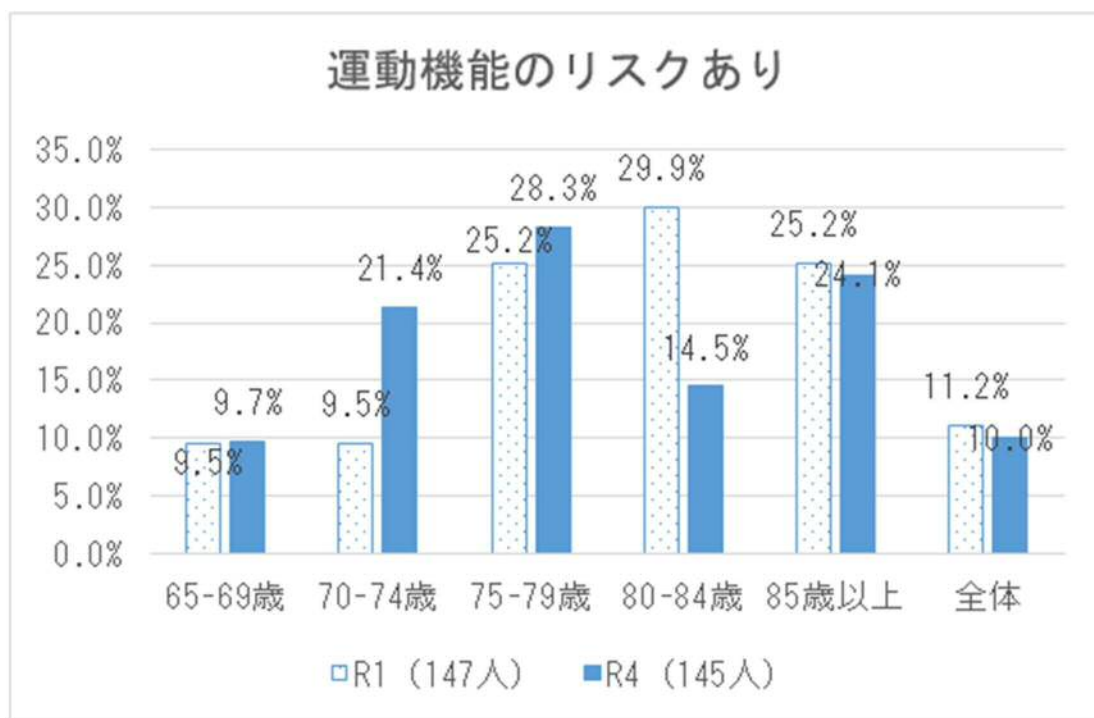
一般高齢者のフレイルのリスク

一般高齢者の回答（1,487通）のうち **運動機能** **口腔機能** **栄養状態** **認知機能** **IADL（日常生活関連動作）** のリスクに該当する回答をした人を抽出し前回調査（令和2年1月実施）と比較しました。（結果報告書 P328～343 参照）

運動機能のリスク

以下の5項目のうち3項目以上に該当する人を運動機能のリスク該当者と判定しました。

設問	該当する選択肢
階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3. できない
椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3. できない
15分位続けて歩いていますか。	3. できない
過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある
転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である

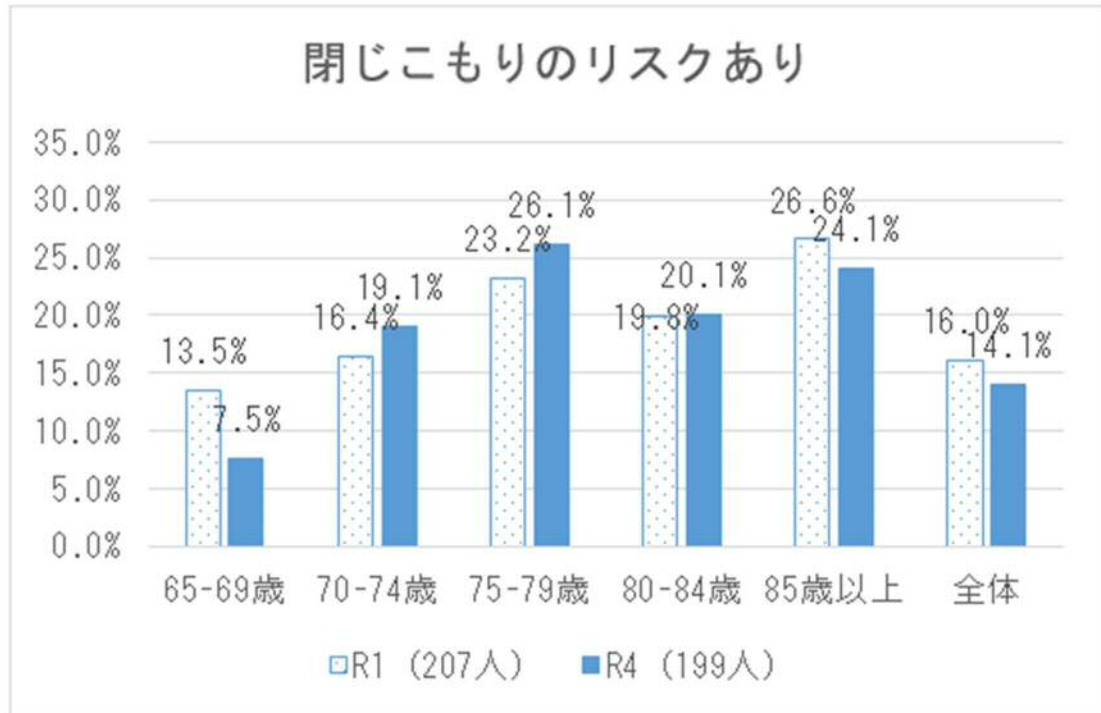


・運動機能のリスクは、70-74歳で11.9%増加、80-84歳で15.4%減少しています。全体的な割合は、ほぼ維持されています。

閉じこもりのリスク

以下の項目に該当する人を閉じこもりのリスク該当者と判定しました。

設問	該当する選択肢
週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回



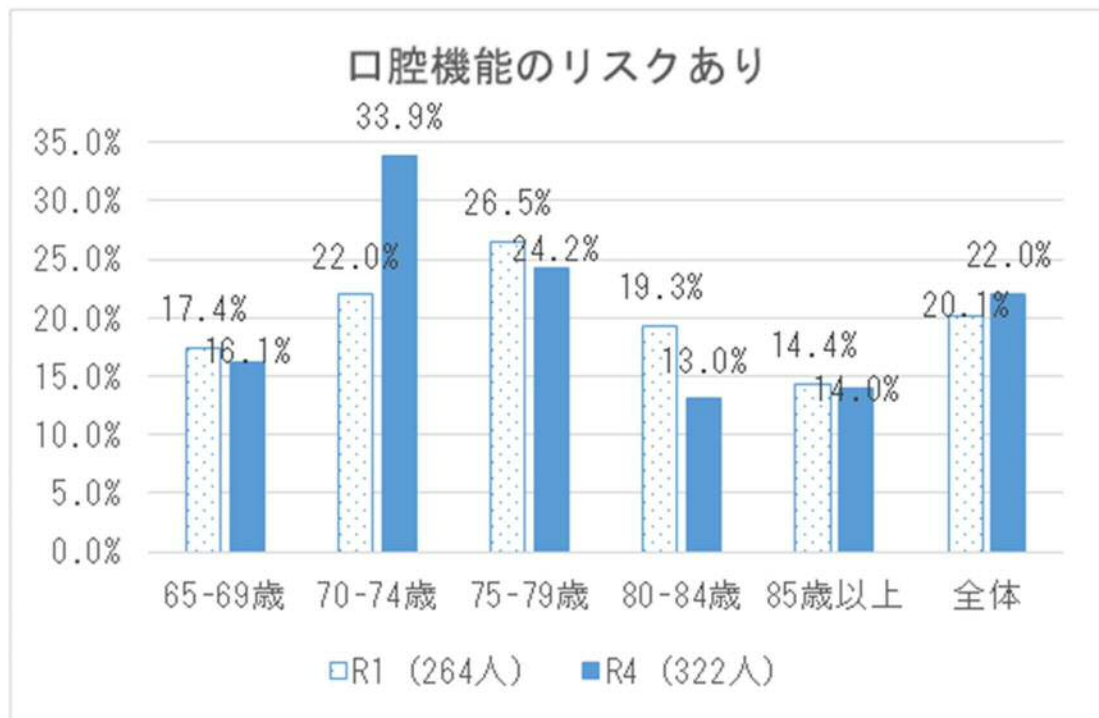
設問	令和元年度 「はい」の割合	令和4年度 「はい」の割合
外出を控えていますか。	18.6%	36.9%

・閉じこもりのリスクは、全体では低下する傾向にありますが、「外出を控えていますか」の設問では、「はい」の人の割合が増加しています。

口腔機能のリスク

以下の3項目のうち2項目以上に該当する人を口腔機能のリスク該当者と判定しました。

設問	該当する選択肢
半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい
お茶や汁物等でむせることがありますか。	1. はい
口の渇きが気になりますか。	1. はい

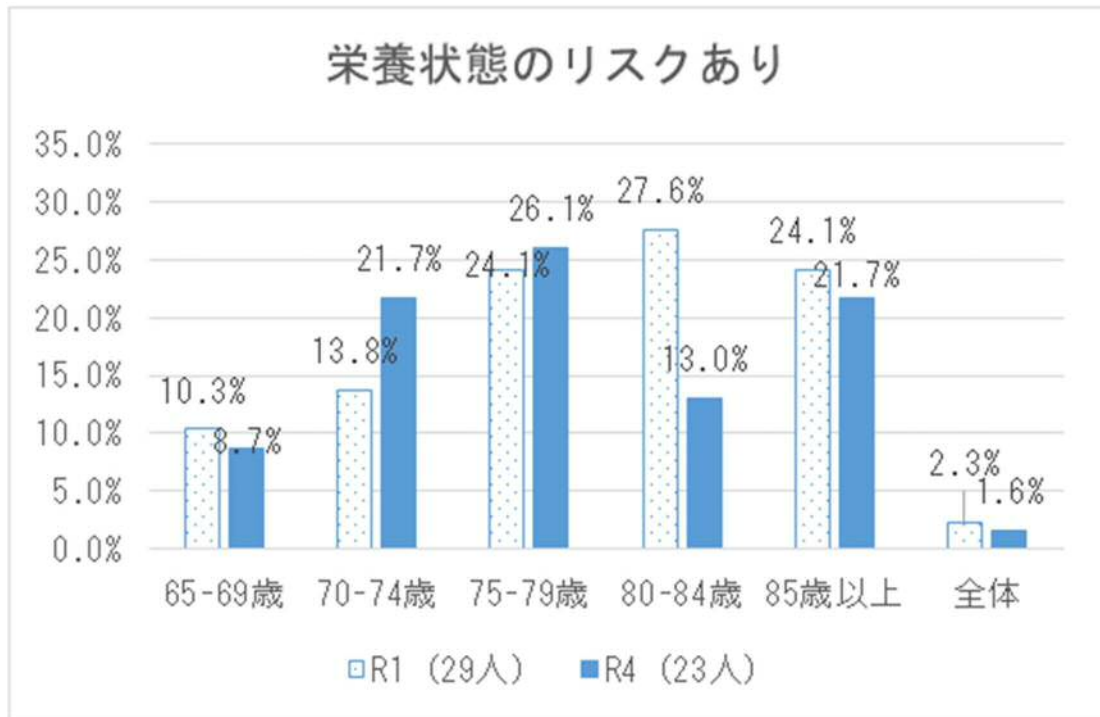


- ・口腔機能のリスクは、各種リスクの分析の中で認知機能のリスクに次いで2番目に高い割合となっています。
- ・70-74歳で11.9%増加しており、年齢別では最も高い割合となっています。

栄養状態のリスク

以下の3項目のうち2項目以上に該当する人を栄養状態のリスク該当者と判定しました。

設問	該当する選択肢
身長・体重をご記入ください。	BMI 18.5未満
6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか。	1. はい



- ・栄養状態のリスクは、各種リスクの中で該当者が最も低い割合となっています。

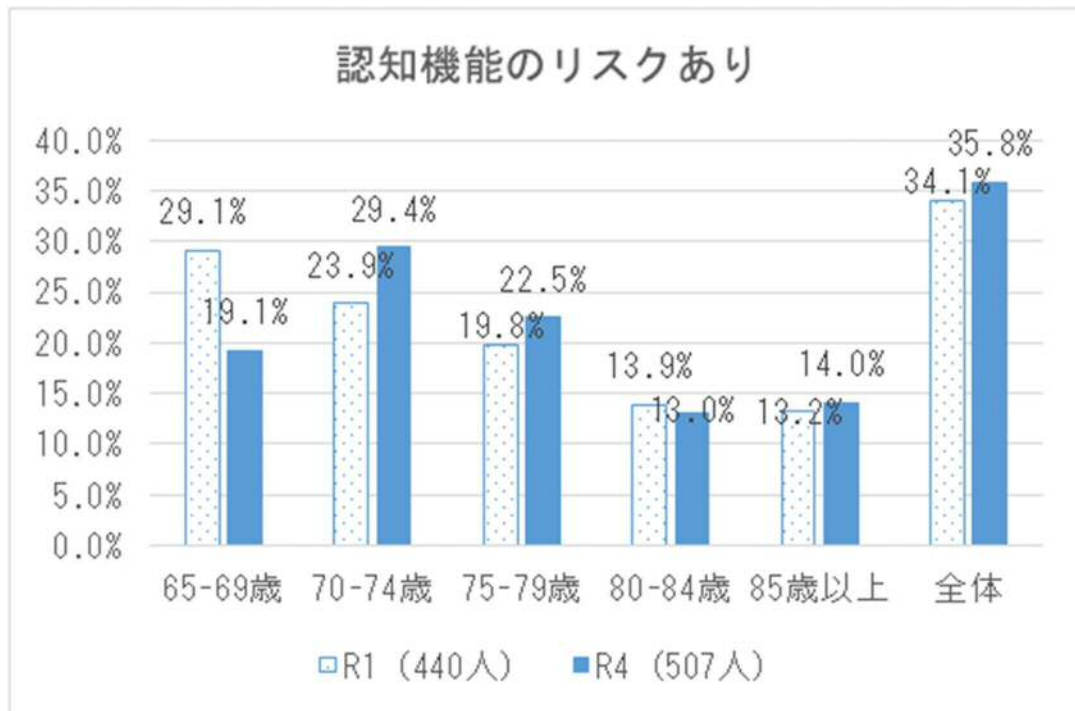
フレイルの進行は、社会とのつながりの喪失・行動範囲の縮小・口腔機能の低下・低栄養・体の不調の順に現れると言われています（フレイルドミノ）。フレイル予防のためには「運動」「栄養」「社会参加」のバランスが取れた取組みが必要です。



認知機能のリスク

以下の項目に該当する人を認知機能のリスク該当者と判定しました。

設問	該当する選択肢
物忘れが多いと感じますか。	1. はい

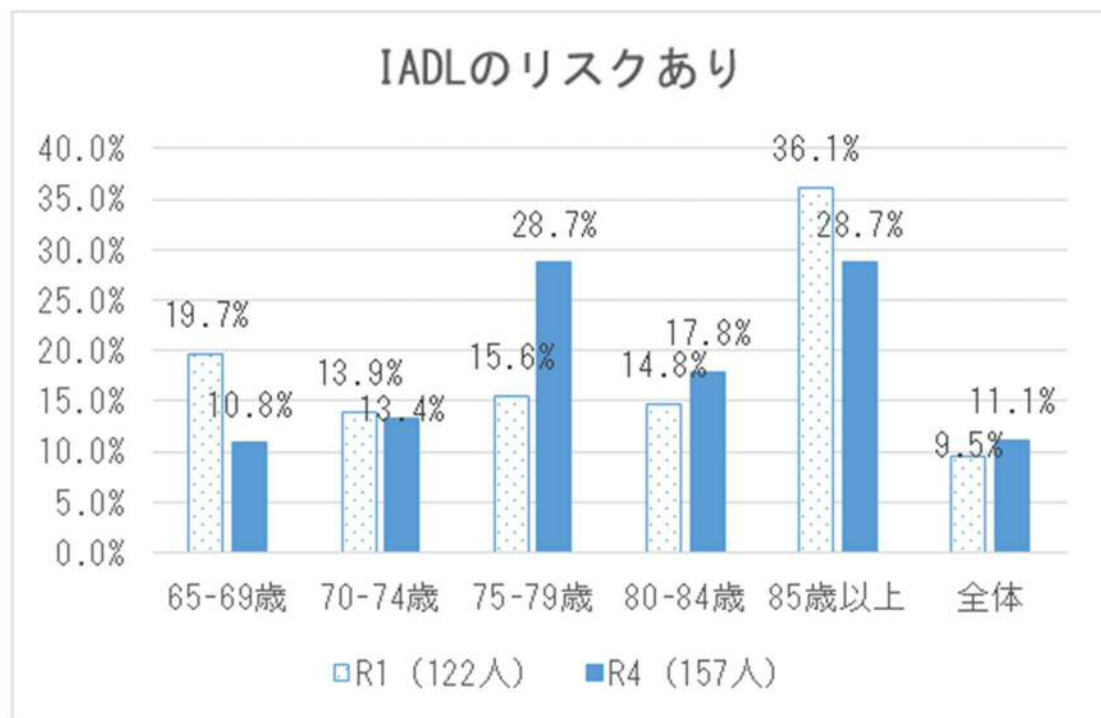


- ・ 認知機能のリスクは、各種リスクの分析の中で最もリスクがある人の割合が高い項目となっています。70-74歳、75-79歳が前回よりも大きく上回っています。

IADL（日常生活関連動作）のリスク

以下の項目に「できるし、している」または「できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点で評価し、5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価しています。また、4点以下をIADLの低下者とし、低下者の割合を示しています。

設問	該当する選択肢
バスや電車を使って1人で外出していますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
自分で食品・日用品の買物をしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
自分で食事の用意をしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
自分で請求書の支払いをしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点
自分で預貯金の出し入れをしていますか。	1. できるし、している：1点 2. できるけどしていない：1点



・IADL（日常生活関連動作）のリスクは、全体では低くなっていますが、75-79歳で13.1%上昇しています。

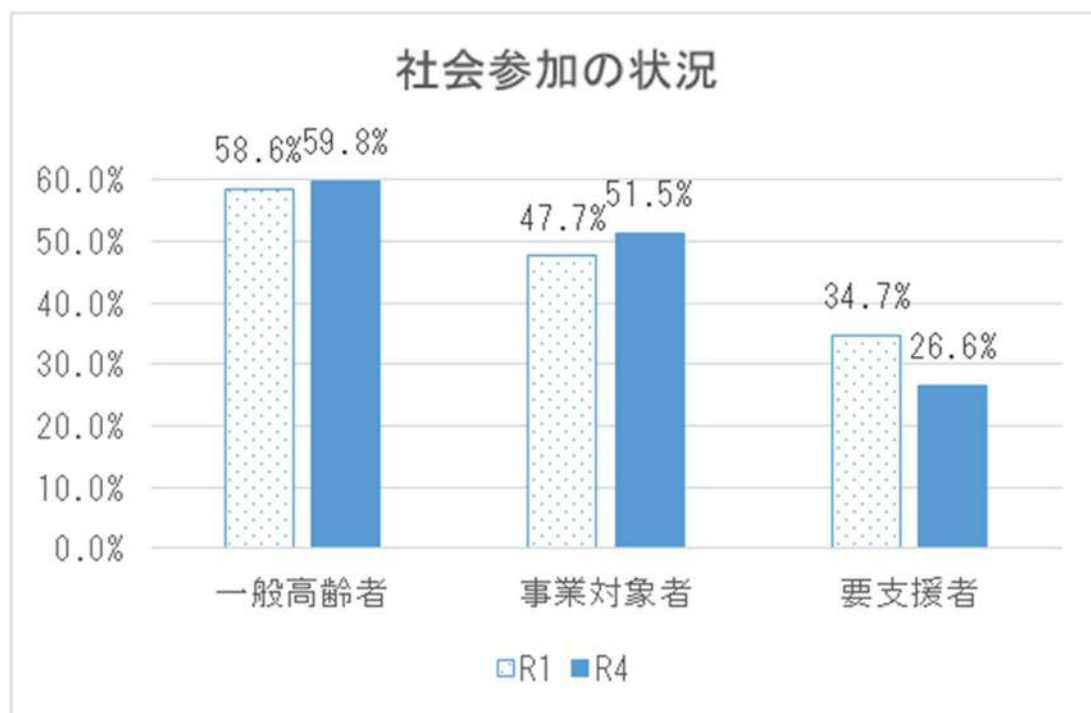
一般高齢者（要介護認定を受けていない65歳以上の高齢者）においても、総合事業対象者と同等のフレイルのリスクがある人が潜在的に存在しています。フレイルは要介護の一手手前の状態ですが、専門職等の支援によって改善できる状態です。

市民に対してフレイルに早く気付くこと、改善をあきらめないことを啓発し、専門職と連携してフレイルの人を元気にする取り組みが必要です。

社会参加について

「一般高齢者」「事業対象者」「要支援者」の回答のうち以下の項目に該当する人を社会参加していると判定し、前回調査（令和2年1月実施）と比較しました。（結果報告書 P43、P134、P260 参照）

設問	該当する選択肢
以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。 （ボランティア活動・スポーツのグループ・趣味のグループ・学習教養サークル・通いの場・シニアクラブ・自治会・収入のある仕事）	1. 週4回以上 2. 週2～3回 3. 週1回 4. 月1回～3回



・一般高齢者、事業対象者では社会参加が増加している一方で、要支援者は8.1%減少しています。

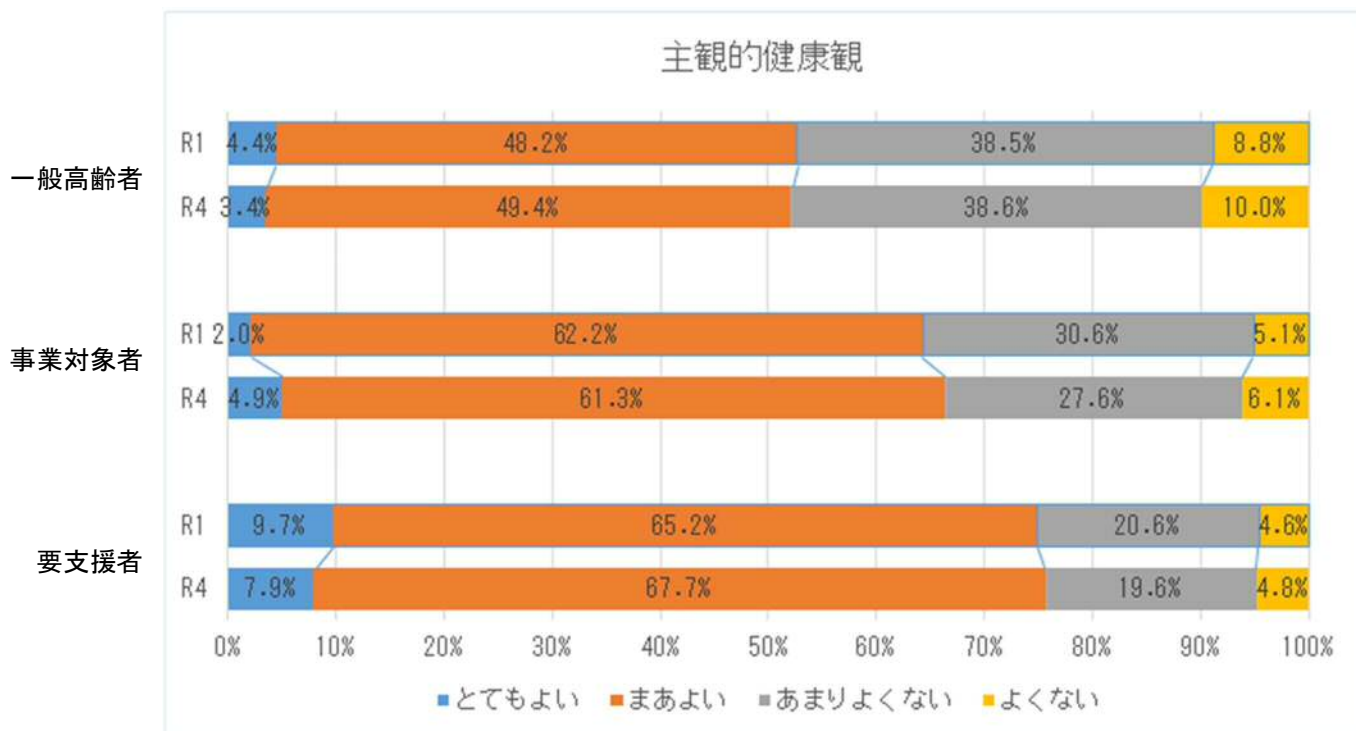
要支援の人は改善可能性があると言われています。社会資源（インフォーマルサービス）を活用した社会参加を進め、本人が望む暮らしを実現する取り組みが必要です。

また、高齢者が住み慣れた地域で自分らしく暮らすためには、一人ひとりに合った多様な社会資源が必要です。既存の社会資源を見つけたり、把握した社会資源を個々へマッチングしたりする取り組みが必要です。

主観的健康観・主観的幸福度について

「一般高齢者」「事業対象者」「要支援者」の回答のうち以下の項目について前回調査（令和2年1月実施）と比較しました。（結果報告書 P64、P156、P290）

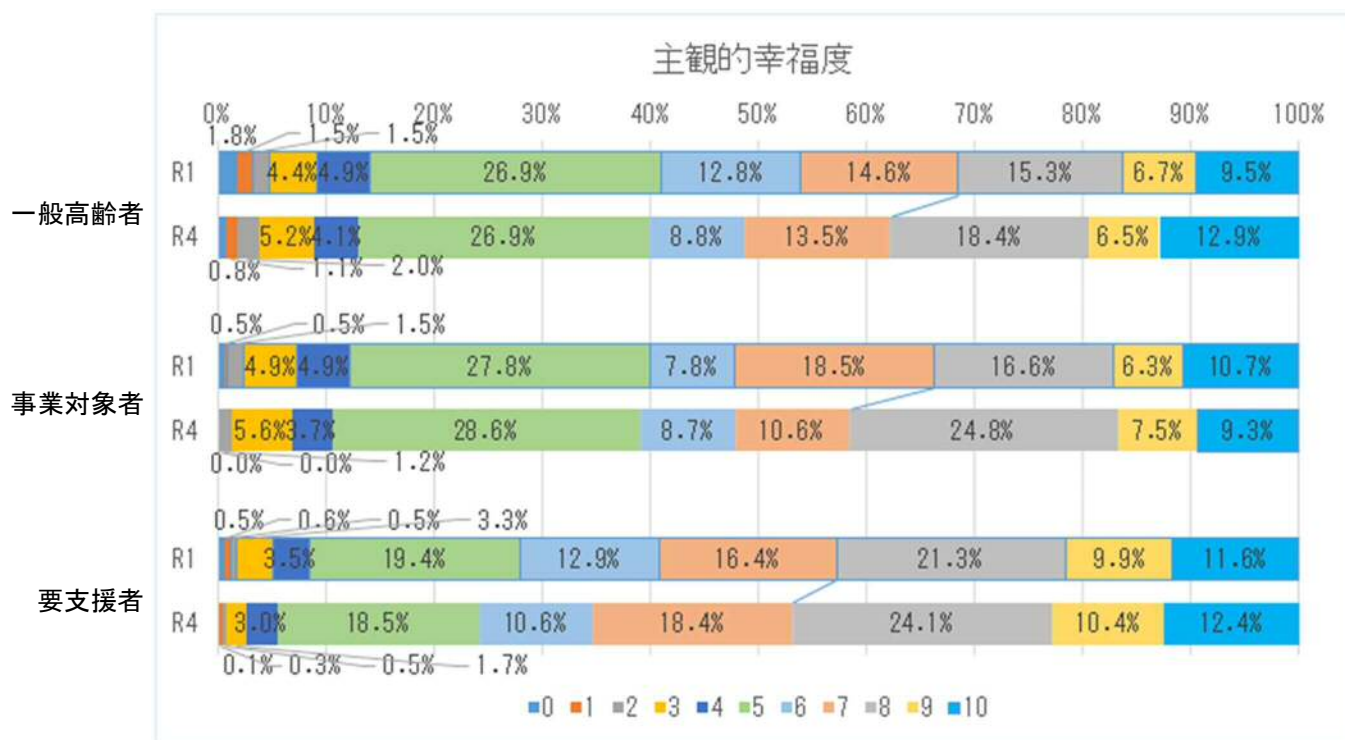
設問	回答
健康状態はいかがですか	1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない



・事業対象者、要支援者は「とてもよい」「まあよい」の割合が増加傾向です。全ての対象で「とてもよい」「まあよい」の割合が半数を超えています。

「一般高齢者」「事業対象者」「要支援者」の回答のうち以下の項目のについて前回調査（令和2年1月実施）と比較（結果報告書 P65、P157、P292）

設問	回答
どの程度幸せですか	「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点

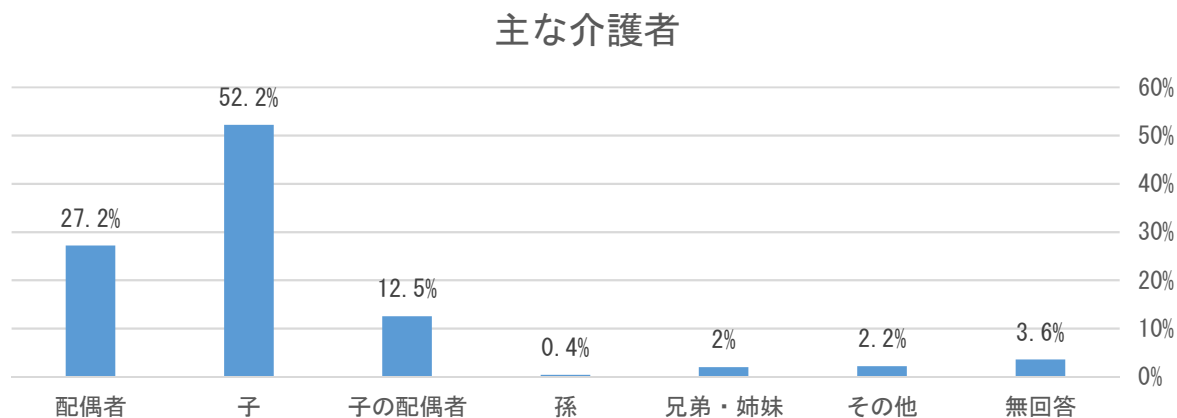


・一般高齢者、総合事業対象者、要支援者いずれも前回より今回の「10・9・8点」の割合が高くなっています。

一般高齢者より、総合事業対象者や要支援者のように支援が必要になるにつれて主観的健康観・主観的幸福度は高くなっています。状態が自立している方ほど自分らしい暮らしに求めるものが高いたと考えられます。要介護より要支援、要支援より事業対象者への支援において、本人が望む暮らしを実現するケアマネジメントに求められることは複雑になります。

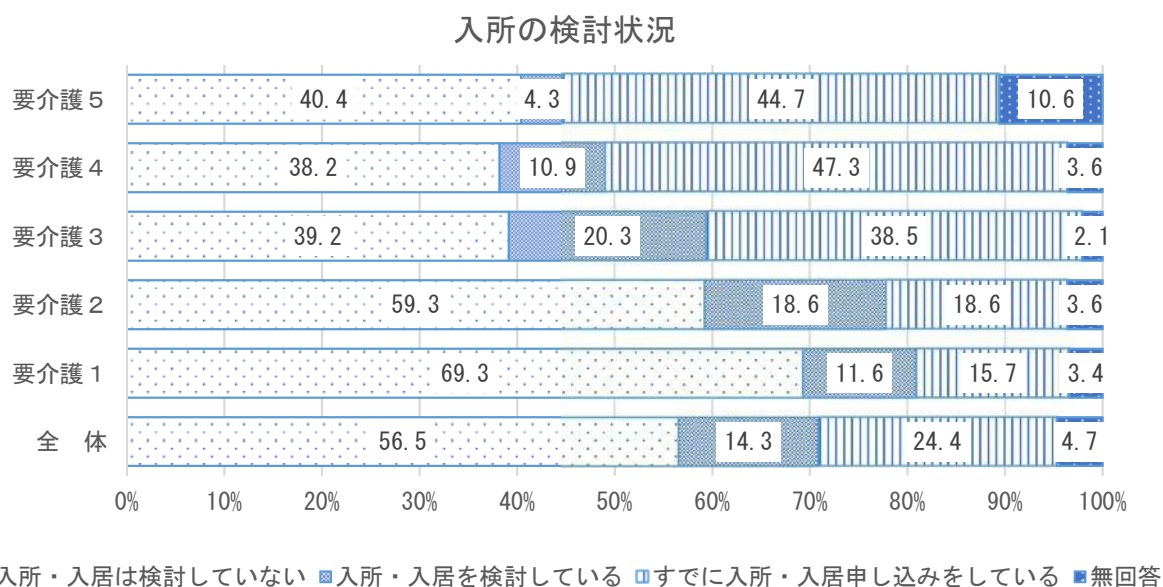
要介護認定者の在宅生活について

設問
主な介護者は誰ですか（結果報告書 P391）



- ・主な介護は、配偶者や子が担っています。

設問
施設等への入所・入居の検討状況について（結果報告書 P349）

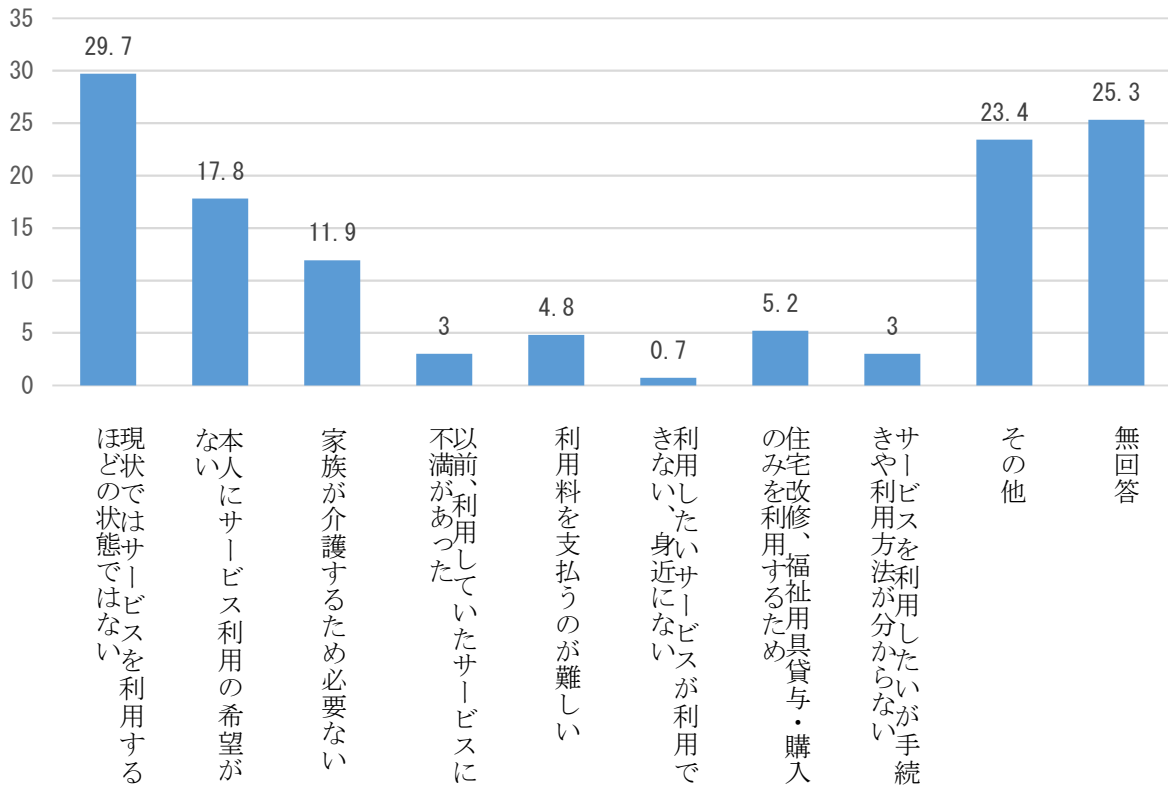


- ・在宅で介護を受ける要介護者のうち半数以上は、入所・入居は検討していません。
- ・要介護3以上になると「入所・入居を検討している」「すでに入所・入居申し込みをしている」の割合が「入所・入居を検討していない」を上回ります。

設問

介護保険サービスを利用していない理由（複数選択可）（結果報告書 P382）

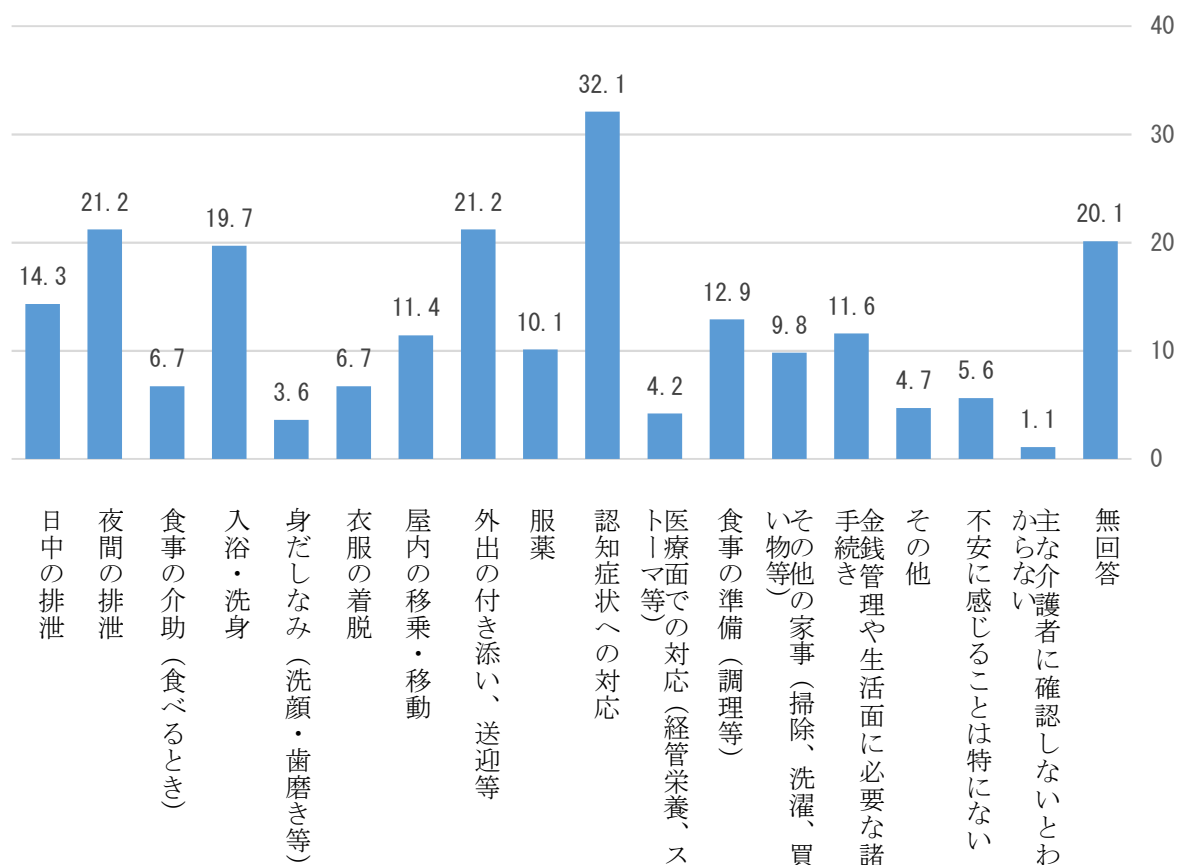
介護サービスを利用していない理由



- ・介護サービスを利用していない人の理由は「現状ではサービスを利用するほどの状態ではない」が29.7%で最も高くなっています。
- ・介護度別には「要介護1」の人が介護サービスを利用していない割合が高く、介護度が重くなるほど何らかの介護サービスを利用するようになります。

設問

現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者が不安を感じる介護（複数回答可）（結果報告書 P397）



・「認知症への対応」が 32.1% で最も高く、「夜間の排泄」「外出の付き添い、送迎等」「入浴・洗身」の順に割合が高くなっています。在宅での介護を支える専門職によるサービスの充実が必要です。